



安心・安全・快適ほっとタウン
新市街地 流山おおたかの森駅
千葉県流山市 面積2800ha
計画人口28600人

駅名が示すように周辺には豊かな自然が広がる環境は抜群。駅前には「オオタカの卵」をイメージした広場が広がり、ショッピングセンターやレストラン（平19春開業予定）、緑あふれる公園へ遊歩道が続きます。教育施設、病院などが揃っているほか、保育環境も充実。市の保育待機児童はゼロ、全学区に児童保育所が開設され、子育てを支援しています。



東武野田線と交差する 流山おおたかの森駅



オランダ人ムルデルの設計 利根 運水水辺公園



環境・地域等のテーマで異色の存在 江戸川大学



流山セントラルパーク駅近く 流山市総合運動公園



世界最高水準の設備で国際交流拠点をめざす 東大柏キャンパス

地域とともに
「国際的都市」へ



東京大学総長 小宮山 宏

日本はいまや課題先進国です。地球上の多様な課題について世界のどの国にも解決のモデルはありません。日本が自ら創り出さなくてはならないのです。東京大学は「時代の先頭に立ち、世界の知の頂点に立つ」をアクションプランとして掲げましたが、とくにこれからの大学は国際性のレベルが問われます。

東京大学は本郷、駒場、柏の三種構造のうち、柏キャンパスを世界最高水準の設備を持った、「論文の交流から人間の交流へ」をめざす国際交流拠点と位置づけました。欧米だけでなくアジアのすぐれた研究者や学生がこの柏をめざして集まるよう、「学」の融合、「知」の冒険」のキャンパスを創り出すという構想です。

そのためにはまず、海外の研究者が家族とともに住める質の高い住宅と快適な生活環境、そして幼、小、中、高の国際的な教育環境が不可欠と思われる。

柏には新しく第二キャンパスと、柏の葉キャンパス駅前にコンタクトオフィスを計画していますが、交通アクセスが課題です。環境負荷の低い小型で低速の新世代路面電車（LRT）、トrolleyバス、または超急速充電などの新技術による電動車両など、いずれかを実験的に走らせ、高齢社会での「まち

なか交通」のモデルにならないかと考えます。

いい街には大学があるといわれますが、都市には身のよりどころとなる「水と農」そして心のよりどころとなる「知の中心」が欠かせません。この柏には期せずして千葉大学の世界一といわれる東洋医学や農業・園芸技術、そして東京大学の先端ゲノム科学など、互換性、補完性の高い教育研究機能が揃い、豊かな「地域の知の中心」となっています。また大学が深く地域に根ざすために、すでに図書館の市民への開放はじめ、キャンパスの植樹を市民といっしょにやるという事業にも取り組みはじめました。

まちづくりプロフェッサーとしてUR都市機構には、質の高い住宅と生活環境の整備とともに、新しい国際的都市へ、行政、大学、企業、市民を包みこんだ地域社会の醸成に、確かな調整力を発揮していただくことを期待しています。

ロハスの街づくり



千葉大学学長 古在豊樹

千葉大学には西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉の4つのキャンパスがあり、学部の領域横断的研究が盛んで、地域密着型の産官学連携や社会貢献にも力を入れ、多くの国際交流の実績も上げています。

つくばエクスプレス沿線の柏の葉キャンパスには「環境健康フィールド科学センター」を2年半前に設置しました。21世紀は環境と心を大切に作る時代という認識に立って、心と身体の同時ケアを目的とした国際的な拠点をめざすものです。当面の研究課題は「環境、健康そして持続可能性を優先したライフスタイルであるロハス（Lohas）」をキーワードとした街づくり、「漢方治療と園芸療法の融合」、「薬用植物の省資源、無農薬、環境保全的生産」などとしていきます。

キャンパス内では合成化学物質無添加のケミカルフリーハウスを作って実証的研究を行うほか、環境ホルモンの胎児への影響などの医学的解明にも力を入れています。この柏の葉キャンパスは、県や自治体、地権者や市民とも協力して、規制を超えた実質特区のような街づくりをすすめていく、いわば千葉大学が未来に向けてチャレンジする実験場なのです。

すでに大学での野菜・花・果物やジヤムの販売、漢方治療専門の診療所などが評価されて収益が上がってきてい

これからの十年は流山の時代



流山市長 井崎義治

つくばエクスプレスによって東京都心への時間距離が大幅に短縮され、流山は東京の近郊都市として首都圏に本格的にデビューしました。市民の所得水準でいうと東京都区部六位の世田谷と七位の杉並の中間という高い水準ですから、東京二十三区の仲間入りもできたのではないかと考えています。もともと人口減少時代ですから、交通条件が整備されたからといって自然に街が活性化するのはありません。流山の豊かな可能性を引き出すということでのまちづくりが本番を迎えるということでしょう。

まちづくりの基本は住宅ですが、流山の住宅は「中額高級住宅」を目標としています。そのターゲットは夫婦がそれぞれ仕事を持つ子育て世代の保育所、全小学校区の児童保育所がほぼ美

まちなみ環境に配慮した高質の住宅群



て、大学の経営という視点からも重要な役割を果たしつつあります。またケミカルフリーハウスの研究は地域の街に広がればと考えています。休耕田を活用した市民農園、ガーデニング、そして薬膳レストランも提案しています。構内には八重桜の並木道も計画中で、市民生活と一体となったキャンパスづくりをさらにすすめていきたいと考えています。今後は周辺の東京大学柏国際キャンパス、国立がんセンター、科学警察研究所、税関研修所など施設の共同利用を含めて有機的な連携を図ることも、柏の葉地区の街づくりにとって大切なテーマではないでしょうか。



野菜・花・果物・ジャムを販売するシーズホール



千葉大学フィールド科学センター祭での生産物販売



緑の環境に包まれた 森の図書館

現しました。また幼、小、中、高一貫校の誘致にも力を入れています。幸い流山には四つの大学があり、若者も集まり、知的人材の集積と輩出の基盤も整っています。できればアメリカ西海岸のパークレイのように、流山はいい街だと世界から人が集まり住み着いてくれるような、国際レベルの住宅や生活環境を創出したいと考えています。

流山はつくばエクスプレス沿線の間では最も緑の多い街ですが、ヒートアイランドを抑制する緑の量と質を確保するためにインセンティブ制度を設け、「おおたかのいた森」ではなく、「おおたかの森の街」へ、ビジョンを明確に描きながら事業をすすめています。

UR都市機構ともこいっしょに、安全安心というテーマで研究会もはじまりましたが、十分にいままでのノウハウを發揮いただいて、モデルになるような街、UR都市機構の街ベストテンに入るようないい街にしていきたいと考えています。

いずれにせよ、流山には、しがらみがなく客観的に冷静に街をとらえる人、これからのまちづくりを担う元気な人、とにかく夢中でまちづくりに取り組む熱い人という、必要な人材が三拍子揃っています。一緒に大胆に改革をすすめて、いきいきとした流山をつくっていきます。これからの十年は流山の時代なのです。